

駅前再開発・住民投票の発信拠点

市民みんなで決める住民投票を実現する会駅前事務所

明石駅前の再開発計画の是非を市民全員の投票にかける「住民投票」の実施を求める直接請求運動が本格的にスタートしました。地方自治法に基づく「署名期間」は8月25日～9月24日の1カ月。7月21日に明石銀座通り商店街の魚の棚入口すぐ南に開設した駅前事務所は、連日市民が訪れて関心と呼んでいきます。

また、事務所前には「明石原人」が登場したシンボルキャラクターの等身大看板もお目見え。軽やかに流れる住民投票運動のテーマソングと併せて、商店街を活気づかせています。



みんなで決めよう！ 駅前再開発

住民投票署名スタート市民集会

期日 8月18日（土）午後1時30分～4時30分

会場 らぽす5階「市民ホール」

講演 シンボルキャラクター制作の空間構想デザイナー 中崎宣弘氏 来たる！

「明石らしい駅前のまちづくり」への提案

署名開始宣言 「さあ、はじめよう。市民が決める明石の将来」 参加した受任者の表明

♪♪♪受任者の皆さん、お誘い合わせてご参加ください♪♪♪

5万人署名を成功させるために

☞お願いその1 受任者登録を広げよう！

- ・「受任者」とは、署名集めに協力して、市民一人ひとりから住民投票を実施するように求める署名を集めていただける市民の方です。地方自治法にもとづく署名ですから、事前に選挙管理委員会に名簿を提出した「受任者」が集めたものでなければなりません。住所、氏名と生年月日を住民投票の会の事務所に届けていただくだけで結構です。

☞お願いその2 署名運動に活動資金が必要です

- ・全市民を対象にした呼びかけや、分厚い署名簿の作成等にたくさんの活動資金が必要です。住民投票の会の会員になって1口3000円の会費を払っていただいたり、寄付金やカンパをお寄せ下さい。会員には呼びかけ人、賛同者、協力者としてそれぞれの立場から会の運営に参加していただけます。

☞お願いその3 街頭署名活動や戸別訪問署名を手伝っていただける方、大歓迎

- ・署名運動をサポートしていただく方は、明石市外や有権者以外の方でもOKです。市民の意思を行政に反映させる運動にご協力下さい。

住民投票運動にシンボルキャラクター&テーマソング

7月21日から配布している「明石駅前再開発・住民投票ニュース」号外1号カラー版やポスターに登場している「明石原人」を模したシンボルキャラクターは、明石市出身の空間構想デザイナー、中崎宣弘さんの作品です。私たちの運動の趣旨を聞いて賛同し、ボランティアで制作していただきました。

中崎さんは、サントリーの大山崎工場で数々のデザインを手がけてこられたほか、世界と全国を旅して、旅とまちづくりと空間デザインをテーマに多彩な活動をしておられます。

明石の「美しく青い海」や城下町の面影を残す明石のまちを、どのようにしたら現代に生きいきと輝やかせることができるか。住民投票の直接請求署名を始めるにあたっての8月18日（土）の市民集会では、旅とまちをテーマにした中崎さんによる明石駅前のまちづくりのあり方を考え、時代錯誤の巨大なコンクリートのビルづくりではない構想の一端を披露してもらいます。



♪♪♪ テーマソング ♪♪♪ 「うまれたまちふるさと」

うまれたまちふるさと

うまれたまちは 大好きよ
いつでも心のなかに あるよ
嬉しいときには 思い出す
悲しいときにも 思い出す
うまれたまち ふるさとは
そんな素敵なまち
きつと きつと忘れない

うまれたまちは 大好きよ
いつでも心のなかに あるよ
裸足でかけっこしたことも
いたずら落書きも残ってる
うまれたまち ふるさとは
そんな素敵なまち
きつと きつと忘れない

うまれたまちは 大好きよ
いつでも心のなかに あるよ
嬉しいときには 思い出す
悲しいときにも 思い出す
うまれたまち ふるさとは
そんな素敵なまち
きつと きつと忘れない
きつと きつと忘れない

駅前再開発・住民投票の会のテーマソングに「うまれたまちふるさと」を採用し、この曲の制作者である西宮市で「みんなげんきジム」を主宰している米田和正さん、山田美紀子さんご夫妻の了承を得ました。

なじみ深い故郷などのメロディーの一部も折り込まれた懐かしい、軽やかなメロディーが、駅前事務所や市内をくまなく回る住民投票の会の宣伝カーから流れます。「うまれたまちは 大好きよ♪♪♪…」が聴こえたら、手を振ってくださいね。

作詞・山田美紀子。作編曲・源悦子。歌・米田和正、山田美紀子ほか、みんなげんきジムのスタッフや子どもたち。

「受任者募集」の街頭呼びかけで、感激のゲット

住民投票の会世話人のSさん（64歳）

21日から明石駅前ではじめた「住民投票請求署名」に協力して署名集めを引き受けていただける「受任者」募集に連日取り組んでいた世話人の一人Sさんは、5日間延べ7時間の街頭呼びかけで、28名の受任者を獲得できた。

Sさんは「知り合いの少ないまちで、どれだけの協力者を集めることができるのか？」と危機感を持っていたが、駅から出てくる人、4、50歳以上の高齢者、片手の空いている人などを対象に一緒に歩きながら話しかけていった。「明石市民の方ですか？私たちは再開発計画に疑問を持っています。話を聴いていただけませんか？」と5、6歩あるきながら話しかけた。

「市民の多くがこの計画に疑問を持っているが、市のやることだからと半分あきらめているのを改めてくれた」と市民の反応に自信を得ている。